

わかみやだより

わかちあい、かんがえ みつけて、やってみよう

音楽会へご来場いただき、ありがとうございました

11月7日(金)に本校体育館にて開催しました音楽会には、多くの保護者の皆様にご来場いただき、厚く御礼申しあげます。子どもたちが一生懸命に取り組んだ合唱や演奏をご覧いただけたことを大変嬉しく思います。また、ご来場者様、PTA役員の皆様のご理解とご協力により、スムーズな進行ができましたことに重ねて感謝申しあげます。

【来賓の方々からの声より】

「子どもたちの表情がとても良かったです」「普段とは違い、緊張感を持って演奏している姿を見ることができました」
「6年生の『ふるさと』のリコーダー演奏、呼びかけには涙が出ました」

福祉学習でお世話になっている、あっぷる加古川さんもこどもたちの応援に駆けつけてくださいました。

ご家庭でも、お子様と音楽会の話ををしていただき、努力をねぎらっていただけたことと思います。12月も引き続き、若宮小学校へのご支援、ご協力をお願ひいたします。

◆ 子どもたちの力を最大限に引き出すために 浜の宮中学校区青少年育成連絡協議会校区大会より

先日行われた本大会では、尾上町小・中学生による人権作文発表会が開催され、本校代表児童1名の人権作文の表彰・発表がありました。同時に、「NPO法人女性と子どものエンパワメント関西」の方より、「女性と子どもの人権について」のご講演がありました。

「感情が落ち着いた状態のとき、その人の能力は最大限に発揮される」講演の中の言葉で、子どもたちの成長に繋がるキーワードです。そのために必要なことをご紹介します。

1. お子様を守る「境界線」の考え方

基本的人権って?

難しく考える必要はありません。それは、「自分と他者は違う」ことを理解し、お互いを尊重しながら共に生きていこうという考え方です。

人権侵害とは?

講演では、「境界線」を超えて、相手のプライベートな領域に踏み込むことだと説明がありました。他者、子どもとの「きよりかん」(境界線)を意識して接することが大切です。もしも「イヤ」と言った時、それは「境界線を超えかけているサイン」かもしれません。一旦行動を止めて、立ち止まって考えることが、人権を守る第一歩です。

2. 自立を促す行動「NO GO TELL」

子どもたちが自分の身を守り、力を発揮する「内なる力(エンパワメント)」を育むためには、次の具体的な行動が大切です。

NO: 嫌なことには、はっきり「イヤ」と言う。

GO: 危ない場所、嫌な状況からは離れる・にげる。

TELL: 困ったことや悩みを、親や先生など信頼できる誰かに相談する。

3. 感情を認め、能力を開花させる

感情は悪いものではない

「怒り」や「悲しみ」など、どんな感情にも良い・悪いはありません。人は感情で動くのですが、まずはその感情を認めましょう。

感情の落ち着かせ方

感情は、親や先生など「話を聞いてくれる人」の存在によって認められることで初めて落ち着きます。まずは「そうか、○○だったんだね」と、感情を聞いてあげることが大切です。
「感情」と「行動」は別に

怒りを感じたときも、自分の感情に気づき、どう行動するかは自分で決める。このトレーニングこそが、「感情の責任者は自分自身」という自立へつながります。

子どもたちの感情に寄り添い、力を信じることで、子どもたちは自分の能力を最大限に伸ばすことができます。学校もこの学びを活かし、保護者の皆様や地域の方々と連携しながら、子どもたちの成長を支援してまいります。

2学期若宮トークデーのお知らせ

2学期のお子様の学校での様子をお伝えし、成長について共に考える機会として、「若宮トークデー」を開催します。

年末を控えお忙しい中ではございますが、ぜひこの機会に学校へ足をお運びください。日時等の詳細につきましては、別途配付いたします案内をご確認ください。